平和の誓い　名護市平和祈願祭

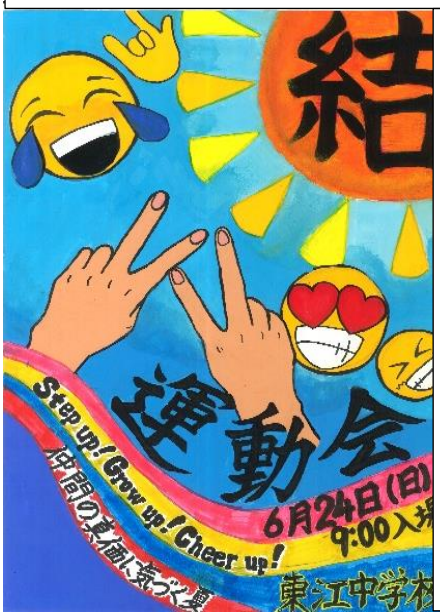
第 20 号
校長 久高利美子

６月 21 日（木）名護市役所平和の塔前で行われた平和祈願祭に、本校生徒会を代表して、大城伶王さんと中村月海さんが出席しました。

平和の誓い　東江中生徒代表　大城伶王

七十三年前、ここ沖縄では住民を巻き込んだ激しい地上戦が繰り広げられ、昼夜を問わない凄まじい空襲などにより、自然豊かな島は傷つけられました。そして何より尊い二十万人余りの命が失われました。その亡くなった方々を追悼するのが6月23日の慰霊の日です。

僕は小学生までは、十二時に南に向かって黙祷するだけで、なぜこの日があるのか、なぜ黙祷するのかを考えずに、曖昧なまま過ごしていました。戦争は昔に起こったことで自分には関係のないものだと思っていたのです。しかし、戦争について学んでいくと、ありえないような出来事ばかりでした。沖縄では地上戦が続き、多くの民間人や子どもが戦場に織り出され、死にたくもないのに殺されていきました。特に戦争が起こると死ぬのが怖くなくなるというのが衝撃的でした。自分が殺される前に、相手を殺すことしか考えなくなるので恐怖もなくなるというのです。この名護市でも五千六百九十一人の方が戦争の犠牲になったといいます。あと少し、生まれてくる時代が違っていれば、僕もこの島で宣せ欧を経験していたのかもしれません。

世界は平和に向かっているかのようにみえますが、今年「平和の礎」へ新たに五十八名の方が刻印されたといいます。このことから沖縄戦はまだ終わっていないように思います。戦争を体験した語り部たちも高齢になり、いつかその語りが聞けなくなるかもしれません。沖縄戦を風化させないためにも、僕等にできることは、少しでも沖縄戦を学び、伝えられるようにしたいと思います。そして、今よりも、はっきりと「平和だ」と言えるようにその礎を築いていくために、仲間を思いやり、当たり前のことに感謝できるようにしたいと思います。

平和月間の取組として、「新聞記事から沖縄戦を学ぶ」「新聞スクラップづくり」（新聞　沖縄タイムス　慰霊の日特集号の活用）「朝の読み語り（平和をテーマにした内容）」「図書館での沖縄戦の写真掲示」「平和集会」を実施。スクラップづくりでは平和に向けた意見を発信するというねらいで行いました。